小倉百人一首 暗記支援プリント（上の句と下の句 線結び）

答え

1	秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ	衣ほすてふ 天の香具山
2	春過ぎて 夏来にけらし 白妙の	富士の高嶺に 雪は降りつつ
3	あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の	わが衣手は 露にぬれつつ
4	田子の浦に うち出でてみれば 白妙の	わが身世にふる ながめせしまに
5	奥山に 紅葉踏みわけ 鳴く鹿の	長ながし夜を ひとりかも寝む
6	かささぎの 渡せる橋に おく霜の	知るも知らぬも 逢坂の関
7	天の原 ふりさけ見れば 春日なる	世をうぢ山と 人はいふなり
8	わが庵は 都のたつみ しかぞ住む	声きく時ぞ 秋は悲しき
9	花の色は うつりにけりな いたづらに	三笠の山に 出でし月かも
10	これやこの 行くも帰るも 別れては	白きを見れば 夜ぞふけにける
11	わたの原 八十島かけて 漕ぎ出でぬと	逢はでこの世を 過ぐしてよとや
12	天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ	人には告げよ 海人の釣舟
13	筑波嶺の 峰より落つる 男女の川	をとめの姿 しばしとどめむ
14	陸奥の しのぶもぢずり 誰ゆゑに	まつとし聞かば 今帰り来む
15	君がため 春の野に出でて 若菜つむ	からくれなゐに 水くくるとは
16	立ち別れ いなばの山の 峰に生ふる	夢の通ひ路 人目よくらむ
17	ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川	みをつくしても 逢はむとぞ思ふ
18	住の江の 岸による波 よるさへや	わが衣手に 雪は降りつつ
19	難波潟 短きあしの ふしの間も	恋ぞつもりて 淵となりぬる
20	わびぬれば 今はた同じ 難波なる	乱れそめにし われならなくに

他プリント

小倉百人一首 暗記支援プリント（上の句と下の句 線結び）

答え

21	今来むと	言ひしばかりに 長月の
22	吹くからに	秋の草木の しをるれば
23	月見れば	ちぢにものこそ 悲しけれ
24	このたびは	幣も取りあへず 手向山
25	名にし負はば	逢坂山の さねかづら
26	小倉山	峰のもみぢ葉 心あらば
27	みかの原	わきて流るる 泉川
28	山里は	冬ぞ寂しさ まさりける
29	心あてに	折らばや折らむ 初霜の
30	有明の	つれなく見えし 別れより
31	朝ぼらけ	有明の月と 見るまでに
32	山川に	風のかけたる しがらみは
33	ひさかたの	光のどけき 春の日に
34	誰をかも	知る人にせむ 高砂の
35	人はいさ	心も知らず ふるさとは
36	夏の夜は	まだ宵ながら 明けぬるを
37	白露に	風の吹きしく 秋の野は
38	忘らるる	身をば思はず 誓ひてし
39	浅茅生の	小野の篠原 忍ぶれど
40	忍ぶれど	色に出でにけり わが恋は

21	紅葉の錦	神のまにまに
22	今ひとたびの	みゆき待たなむ
23	いつ見きとてか	恋しかるらむ
24	人目も草も	かれぬと思へば
25	むべ山風を	嵐と言ふらむ
26	わが身ひとつの	秋にはあらねど
27	暁ばかり	憂きものはなし
28	人に知られで	くるよしもがな
29	有明の月を	待ち出でつるかな
30	置きまどはせる	白菊の花
31	つらぬきとめぬ	玉ぞ散りける
32	雲のいづこに	月宿るらむ
33	流れもあへぬ	紅葉なりけり
34	ものや思ふと	人の問ふまで
35	あまりてなどか	人の恋しき
36	松も昔の	友ならなくに
37	静ず心なく	花の散るらむ
38	吉野の里に	降れる白雪
39	人の命の	惜しくもあるかな
40	花ぞ昔の	香ににほひける

他プリント

小倉百人一首 暗記支援プリント（上の句と下の句 線結び）

答え

41	恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり		くだけてものを 思ふころかな
42	契りきな かたみに袖を しぼりつつ		昼は消えつつ ものをこそ思へ
43	逢ひ見ての 後の心に くらぶれば		身のいたづらに なりぬべきかな
44	逢ふことの 絶えてしなくは なかなかに		人知れずこそ 思ひそめしか
45	あはれとも いふべき人は 思ほえで		長くもがなと 思ひけるかな
46	由良のとを 渡る舟人 かぢを絶え		末の松山 波越さじとは
47	八重むぐら 茂れる宿の 寂しきに		人をも身をも 恨みざらまし
48	風をいたみ 岩うつ波の おのれのみ		行く方も知らぬ 恋の道かな
49	みかきもり 衛士のたく火の 夜は燃え		人こそ見えね 秋は来にけり
50	君がため 惜しからざりし 命さへ		昔はものを 思はざりけり
51	かくとだに えやは伊吹の さしも草		今ひとたびの 逢ふこともがな
52	明けぬれば 暮るるものとは 知りながら		まだふみも見ず 天の橋立
53	嘆きつつ ひとり寝る夜の 明くる間は		かたぶくまでの 月を見しかな
54	忘れじの 行く末までは かたければ		名こそ流れて なほ聞こえけれ
55	滝の音は 絶えて久しく なりぬれど		さしも知らじな 燃ゆる思ひを
56	あらざらむ この世のほかの 思ひ出に		なほ恨めしき 朝ぼらけかな
57	めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に		いかに久しき ものとかは知る
58	有馬山 猪名の笹原 風吹けば		今日を限りの 命ともがな
59	やすらはで 寝なましものを 小夜更けて		雲隠れにし 夜半の月かな
60	大江山 いく野の道の 遠ければ		いでそよ人を 忘れやはする

他プリント

小倉百人一首 暗記支援プリント（上の句と下の句 線結び）

答え

61	いにしへの　奈良の都の　八重桜	かひなく立たむ　名こそ惜しけれ
62	夜をこめて　鳥の空音は　はかるとも	恋に朽ちなむ　名こそ惜しけれ
63	今はただ　思ひ絶えなむ　とばかりを	いづこも同じ　秋の夕暮れ
64	朝ぼらけ　宇治の川霧　たえだえに	花よりほかに　知る人もなし
65	恨みわび　ほさぬ袖だに　あるものを	よに逢坂の　関は許さじ
66	もろともに　あはれと思へ　山桜	けふ九重に　にほひぬるかな
67	春の夜の　夢ばかりなる　手枕に	竜田の川の　錦なりけり
68	心にも　あらで憂き世に　ながらへば	人づてならで　言ふよしもがな
69	嵐吹く　三室の山の　もみぢ葉は	恋しかるべき　夜半の月かな
70	寂しさに　宿を立ち出でて　ながむれば	あらはれわたる　瀬々の網代木
71	夕されば　門田の稲葉　おとづれて	もれ出づる月の　影のさやけさ
72	音に聞く　高師の浜の　あだ波は	乱れて今朝は　ものをこそ思へ
73	高砂の　尾の上の桜　咲きにけり	われても末に　逢はむとぞ思ふ
74	憂かりける　人を初瀬の　山おろしよ	雲居にまがふ　沖つ白波
75	契りおきし　させもが露を　命にて	蘆のまろやに　秋風ぞ吹く
76	わたの原　漕ぎ出でて見れば　ひさかたの	かけじや袖の　ぬれもこそすれ
77	瀬を早み　岩にせかるる　滝川の	あはれ今年の　秋もいぬめり
78	淡路島　通ふ千鳥の　鳴く声に	激しかれとは　祈らぬものを
79	秋風に　たなびく雲の　絶え間より	外山の霞　立たずもあらなむ
80	長からむ　心も知らず　黒髪の	幾夜寝覚めぬ　須磨の関守

他プリント

小倉百人一首 暗記支援プリント（上の句と下の句 線結び）

答え

81	ほととぎす　鳴きつる方を　ながむれば		山の奥にも　鹿ぞ鳴くなる
82	思ひわび　さても命は　あるものを		濡れにぞ濡れし　色はかはらず
83	世の中よ　道こそなけれ　思ひ入る		霧立ちのぼる　秋の夕暮れ
84	長らへば　またこのごろや　しのばれむ		忍ぶることの　弱りもぞする
85	夜もすがら　物思ふころは　明けやらぬ		憂きに堪へぬは　涙なりけり
86	嘆けとて　月やは物を　思はする		ただ有明の　月ぞ残れる
87	村雨の　露もまだひぬ　槇の葉に		憂しと見し世ぞ　今は恋しき
88	難波江の　蘆のかりねの　ひとよゆゑ		閨のひまさへ　つれなかりけり
89	玉の緒よ　絶えなば絶えね　ながらへば		かこち顔なる　わが涙かな
90	見せばやな　雄島のあまの　袖だにも		みをつくしてや　恋ひわたるべき
91	きりぎりす　鳴くや霜夜の　さむしろに		ふりゆくものは　わが身なりけり
92	わが袖は　潮干に見えぬ　沖の石の		世を思ふゆゑに　もの思ふ身は
93	世の中は　常にもがもな　渚漕ぐ		焼くや藻塩の　身もこがれつつ
94	み吉野の　山の秋風　小夜ふけて		なほあまりある　昔なりけり
95	おほけなく　憂き世の民に　おほふかな		海人の小舟の　綱手かなしも
96	花さそふ　嵐の庭の　雪ならで		人こそ知らね　乾く間もなし
97	来ぬ人を　まつほの浦の　夕なぎに		衣片敷き　ひとりかも寝む
98	風そよぐ　ならの小川の　夕暮れは		わが立つ杣に　墨染めの袖
99	人もをし　人も恨めし　あぢきなく		ふるさと寒く　衣打つなり
100	ももしきや　古き軒端の　しのぶにも		みそぎぞ夏の　しるしなりける

他プリント

https://100nin.com ver1.2